

体制強化

なども協議

（東北などを審議し、原案通り者ら約り決定した。名称は「奥州スマートインターチェンジ」となった。ま

た、協議会規約を一部改正し、今後の本格着工に向け国や東日本高速道路(株)の委員を増やし、体制を強化した。今後、標識適正化委員会（本県の場合は県道路交通環境安全推進連絡会議）での決定を経て、東日本高速道路(株)と同機構に名称案を伝達。同機構が名称を決め、同社が標識を設置する見通し。

奥州スマートICの連結位置は奥州市胆沢区小山。接続施設は、上の線が市道附野下笹森線、下の線が県道衣川水沢線。運用形態は、一旦停止型フルインタ

形式で、24時間対応。ETC車載器を搭載した全車種が対象となっている。

設置効果として▽基幹産業（農業）の振興▽救急医療の支援▽居住者の利便性向上▽製造業の支援▽観光・イベント誘客を挙げている。



（仮称）奥州スマートインターチェンジ地区協議会の第2回会合

地域環境の美化へ

現場周辺で清掃

昭栄建設(盛岡市上堂、横澤昭博社長)は8月20日、鹿妻堰周辺の道路清掃を実施。道路愛護月間にあわせて、同社が受注した工事の現場周辺での道路清掃を行い、地域環境の美化に努めた。

同社は年に2〜3回のペースで本社周辺の

同日の清掃活動には約20人の同社社員が参加。鹿妻堰の周辺約1・4キロにわたって、道路に落ちていたゴミを拾い集めた。

同社の武田克彦専務

で26人が被災

道家屋で増加傾向

（は、被災している。50・0%増の10人が被災している。

なっている。業種別の発生状況は、製造業が38人で7・3%減、運輸交通業が20人で25・9%減。商業は24人で4・3%

方向を制御するために木材グラブのつみ装置を地上4・4メートルのところに添えながら、チェーンソーで伐木したところ、切断部上を削ってほしい」と

に対し、「労働衛生週間の実効性を上げるために、準備期間中に積極的な取り組みを行い、労働衛生水準の向上を図ってほしい」と

今週の予定

- 7日(月) 建設業地域懇談会 (10時・釜石合庁) 建設業地域懇談会 (14時・大船渡合庁)
- 8日(火) 県建設業協会北上支部・県北上土木センター情報伝達訓練 (9時・支部会館) 建設業地域懇談会 (9時・宮古合庁) 県契約審議会 (10時・エスポワールいわて) 建設業地域懇談会 (13時30分・岩泉地区合庁)
- 9日(水) 建設業地域懇談会 (13時30分・遠野合庁) 建設業ふれあい事業 (13時50分・一関市立川崎小学校)
- 10日(木) 第2回建設業セミナー (14時・シーパル大船渡)
- 12日(土) 八戸・久慈自動車道整備促進住民大会 (13時30分・久慈市文化会館アンバーホール)
- 13日(日) 平成大橋開通式 (14時・北上市)

建設業は2カ月連続で改善

8月の景況感

は「昨年度は近隣の工事で優良県管建設工事を受賞することができた。これから当地での工事もスタートする」とみている。

建設業者の景況感の判断理由では「2017年の愛媛国体に関連した工事や学校の耐震工事が有好況」（建築工事）、「公共施設（病院、老人ホームなど）の改修工事の増加により、マンション着工台数の減少をカバーできている」（木製建具工事）などの声が聞かれた。



鹿妻堰周辺の道路清掃を行った昭栄建設の社員

採算割れ案件であったり、入札で負けてしま